

それゆけ！ としよかんだより



第56号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

「GIUSEPPE TUCCI 博士将来『初会の金剛頂経』梵文原典」

密教学科教授 乾 仁志

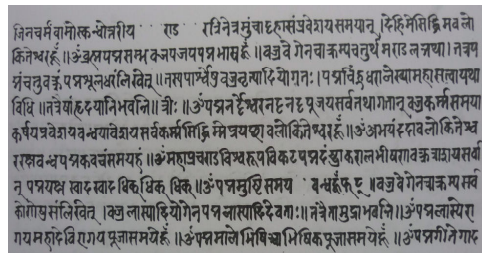
イタリアの高名な東洋学者であるジュセッペ・トゥッチ博士によって『初会の金剛頂経』の梵文写本が発見されたのは1932年である。このトゥッチ博士所持本の写真は戦後しばらくして高野山大学にもたらされた。その経緯については、堀内寛仁先生の「初会金剛頂経梵本ローマ字本（一）」の「はしがき」（『高野山大学論叢』第三巻）に次のように紹介されている。

「金剛頂経の梵本が存在する事を知ったのは、もう十年以上になると思う。清田寂雲師がトゥッチ博士所蔵の写本の写真（それは横浜のイタリア大使館に送って貰って館内で撮影した由）それを持って来山された時であった。場所は中野先生の御宅であった」

清田教授（叡山学院）が来山されたのは、はしがきの記述が昭和42年とあるので、昭和30年（1955）前後のことと思われる。その後、高野山大学でも中野義照先生と酒井真典先生のご尽力によって写本の写真を入手することができた。それはちょうどその頃に大谷大学の稲葉正就教授がイタリアのトゥッチ博士の許に行かれることになり、そこで同教授に依頼して写真を撮って来てもらうことができたからである。

ただし、高野山大学図書館にはトゥッチ博士将来の梵文原典の写真やネガは所蔵されていない。私自身は堀内先生が所持されていた写真本から直接コピーさせていただいていたのであるが、平成21年（2009）に当時文学部長をされていた越智淳仁先生から、トゥッチ博士所持本のコピーの依頼があったのを機会に、堀内先生の解説や論文を織り交ぜて、私自身が持ち合わせていたコピー本によって数部コピーを作成し、標記のタイトルを付けて、一部を高野山大学図書館にも納めた。

『初会の金剛頂経』のローマ字表記による全文校訂文としては、堀内先生の『梵蔵漢対照 初会金剛頂経の研究 梵本校訂篇』上下二巻（密教文化研究所）があり、昨今では梵文写本にまで遡って確認することは少なくなったかと思うが、関心のある学生諸君には是非利用していただきたいものである。



『なるには Books : 宗教家になるには』 図書館学生モニター 湯川 咲紀子(スピークア3回生)

「自分に向いてる職業はなに?」「憧れのあの職業に就くにはどうしたら・・・」「この仕事ってどんな仕事なんだろう」「そもそも何で働かなきゃいけないの?」「働くって・・・なに」

大学卒業後の進路、特に就職のことを考えたとき、皆さんはこのような疑問や不安を抱いたことはないでしょうか。「なるには Books」シリーズは、このような仕事の疑問を分かりやすく解説してくれる職業案内シリーズです。どの職業を紹介するときも、必ず「今」その仕事をする人へのインタビューがあり、生の声を聞かせてくれます。

今回紹介する『宗教家になるには』では、僧侶、神主、神父、牧師、新宗教家、それぞれの宗教家の世界を紹介しています。各宗教家へのインタビューでは、実際の仕事内容はもちろん、宗教家としてのやりがいや苦悩も語られています。また、「宗教家を支える仕事」としてお寺の奥さんも紹介されています。

「なるには Books」人気のページ「なるにはコース」では、各宗教家になるための道が具体的に紹介されています。その中には高野山大学の文字も・・・♪

『宗教家になるには』以外にも、図書館には「なるには Books」シリーズが数冊置いてあります。将来を決めている人もこれから決めていく(私のような)人も、1冊手に取って、未来の自分に思いを馳せてみませんか?

幻ではなかった織田信長の高野攻め-高野山集議感状-

図書館員 木下 浩良

織田信長による、比叡山延暦寺への焼き討ちはあまりにも有名ですが、実は高野山も信長により焼き討ち寸前の危機的状況であったことは、意外にもあまり知られていません。事の発端は、信長に反旗をひるがえした有岡（伊丹）城主荒木村重の残党を、高野山側が匿ったことでした。激怒した信長は、諸国行脚の高野聖を捕縛して処刑しました。その数は数千人ともいわれています。

さらに信長は高野攻めの意思を固めて、出陣の陣ぶれを出します。ただ、この天正9年（1581）当時の信長は四方を敵に囲まれて、それぞれに方面軍が出陣して、高野攻めの余裕はなかったのでは、とされています。高野攻めに関する史料も『信長公記』に断片的な記載があるだけで、詳細な記録は後世の江戸時代中頃の史料の『天正高野治乱記』（『続真言宗全書』第41巻所収）があるだけです。これまで、信長の高野攻めそのものを幻として、疑問視されてきました。

ところが、先年、図書館の収蔵庫の中より、信長の高野攻めに際して高野山が発給した、「高野山大集議感状」が見出されたのです。全文を紹介すると、「今度信長軍勢差向之所其党/稻葉党与相議先登武畧殊軍監/其誉諸陣感動仍山林田畑屋鋪等/附之公事諸役令免許最先許感状/文段之格式集議許諾無違信猶更/再感之賞儀別紙目錄相副賞之候/可為子孫永々之龜鏡状如件/高野山/天正十一年正月日 大集議（黒印）/橋口隼人正殿」、となります。

この文書は、天正11年（1583）正月に信長の高野攻めに軍功があった地士の橋口隼人正に対して、高野山が発給した感状（かんじょう：武将が部下の戦功を賞して与える文書）なのです。橋口は高野山から恩賞として、所有する山林田畑屋鋪等に付けられた公事諸役が子孫に至るまで免除されたわけです。この頃の高野山は、周辺地域を中心として17万石程の領地を所有していたとされています。高野山の僧侶は3000人程がいて、領地の地士もこぞって高野山に味方したと伝えます。高野山の登山口は7箇所あって、それぞれに砦が築かれました。おそらく、高野山の領地の領民も地士と共に高野山に籠城したものと考えます。いずれにしても、織田信長による高野攻めは、幻ではありませんでした。事実としてあったのです。

信長は、天正10年（1582）6月、明智光秀により本能寺の変で自殺します。高野山を包囲していた信長軍は退陣しました。高野山は、最大の難関を逃れたのでした。



図書館通信

第3回図書館ミニコンサートのお知らせ

『ピアノコンサート』
演奏：高野山学園教職員音楽同好会
日時：12月7日(水)17:00～17:40
場所：図書館閲覧室

学生さん、一般の方、どなたでも自由に参加していただけます。参加希望の方は当日直接会場にご参集下さい。お待ちしております♪

ミニ企画コーナー

「本学教員推薦図書」コーナーを設置いたしました。
12月は野田悟先生と室寺義仁先生の推薦図書です。どうぞご利用下さい。

(編集後記)

2011年も残すところあと1ヶ月。今年もあっという間に時間が過ぎていった気がします。(石原)

発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町高野山385
高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835
Fax:0736-56-5590
E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館
	9:00-17:00		

切り取り